

戦争はいやだ！といえない安倍首相

69回目の終戦記念

今年も「不戦」「反省」に触れず

8月15日、69回目の終戦記念日を迎え、日本武道館で全国戦没者追悼式が行われました。

安倍首相の読み上げた式辞は、昨年同様今年も「不戦の誓い」はなくアジア諸国に対する加害の言葉もありませんでした。さらに、多くの戦没者の犠牲の上に今の平和があると述べました。兵士たちの遺骨収集に意欲をしめしました。

国家から見捨てられた兵士、捨て石になった沖縄

安倍首相は、兵士たちがなぜ遙か南の地まで戦闘にいかねばならなかったのかはふれていません。当時経済的に追い込まれた日本がアジアに利権を求めて進出していったのです。ヨーロッパ列強からアジアの開放という大義名分で本質を押し隠したのです。犠牲になったのは兵士ばかりでなく現地住民、日本においては各地空襲や長崎、広島原爆投下、沖縄における地上戦などで多くの一般人が戦争の犠牲になったのです。

軍人の死者は230万人そのうち6割の140万人が餓死でした。南方でなくなった兵士たちは物資の補給がたたれ、餓死に追い込まれたのです。つまり国家から見捨てられたのです。

国会は戦後生まれの議員が9割超を占めています。これが歴史認識、安全保障政策がこれまでと違い、大きく転換している一因だといわれています。アフリカや中東、ウクライナなど民族、宗教などそれぞれの利害が大国の利権に利用され複雑に絡み合い問題をより一層複雑にしています。私たちは混沌する世界情勢のなかで武力がいかに無力か見なくてはなりません。世界の経済状況が悪化する現状と世界情勢はリンクしているといえます。世界経済は混迷から未だ抜けられません。これまで経済中心から自然や文化に重点をおく動きも出てきています。今こそ日本の非戦の平和主義が役立つ時なのです。

平和主義を貫こう！！